



大井町恵那峡

樋口 舞さん (28 歳)

□プロフィール

愛知県岡崎市出身。恵那峡公園にある「恵川」の経営を行う。幼い頃から絵を描くことが好きで、美術大学に進学。趣味は昭和時代のグッズや洋服を集めること。



▲大井ダム 100 周年を P R する樋口さん (右)

今年、完成 100 周年となる大井ダムが作り出した恵那峡。樋口舞さんは恵那峡で土産物や雑貨を取り扱う店舗「恵川」を営んでいる。樋口さんは愛知県岡崎市出身。先代の店主である祖母を訪ねて幼いころから店の手伝いをしていた。大学時代は油絵や現代美術を学び修士課程も修了。卒業後は制作を中心にを行うアーティストになりたいと考えていた。そんなとき、恵那峡を再度訪れ、恵那峡の再整備がされていたこと、店舗に美術の制作スペースになりそうな場所があったことから、恵川を継ぐことを決意。恵那市に移住した。

店を継ぐにあたり、大学時代に培った美術制作の技術を駆使して、商品棚や床、壁などを約 1 年かけて改修。令和 4 年 10 月にリニューアルオープンした。本年 10 月で、店は満 2 年になる。現在は、祖母の代に行っていた飲食業を復活させようと、以前使用していたカウンターを改修中。店の経営をしな

恵那峡の良さを伝えたい 魅力が伝わる店舗を目指して

がら、自らタイル貼りなどの作業を行っている。今後は自身の美術制作の他、店の空いているスペースを利用して、観光客に制作体験をしてもらうアトリエを作ったり、恵那峡のグッズを制作したりしたいと考えている。

樋口さんは大井ダム完成 100 周年記念実行委員でもあり、会議に参加したり SNS を活用したりして大井ダムや恵那峡の P R にも力を入れている。恵那峡の歴史を知ってもらいたいと、昭和時代のポストカードやキーホルダーなどの土産品を収集中で、「店内を恵那峡の資料館のようにしたい」と話す。

「恵那峡の魅力が伝わるような店舗づくりをしたい」。それが樋口さんの目指すところだ。今後も「恵那峡が好き」という気持ちを大切にしながら、幼いころから慣れ親しんできた恵那峡の良さを伝えるため、店舗の経営を行っていく。



その他の話題もウェブサイトに満載

7/31

8/6・20

大井ダムと恵那峡を学ぼう



大井ダム完成 100 周年を記念し、市内小中学生に大井ダムと恵那峡の理解を深めてもらおうと、大井ダム・発電所見学会が行われました。参加者は、関西電力㈱社員のガイドを聞きながら、発電所の中などを見学しました。この他の記念事業は本紙 3 頁で紹介しています。

8/3-4

自己表現力を高める演技ワークショップ



恵那文化センターで、コミュニケーション能力や自己表現力を高めようと㈱ホリプロとの連携協定に基づき、演技ワークショップが開催されました。講師は演技トレーナーの秦秀明氏。参加者は、身振りだけで表現するゲームなどを行い、演技を通じた交流を楽しみました。

8/21

「若い世代が集まる魅力ある住宅」をテーマに提案を発表



学校法人角川ドワンゴ学園が運営する N 高等学校・S 高等学校・N 中等部の生徒が市営住宅リノベーションプロジェクトに参加しました。生徒らは岩村町の市営住宅を見学し、グループごとで作成した個性豊かな案を練り上げ、堂々と発表しました。

8/17

元プロ野球選手から学ぶ野球教室



まきがね公園で、岩村ライオンズクラブが主催の野球教室が開催され、元中日ドラゴンズの彦野利勝さん、前原博之さんら元選手から小学生 147 人が指導を受けました。参加した大井スポーツ少年団の加藤鳳真さんは「元プロ野球選手に会えてうれしかった」と振り返りました。

8/30

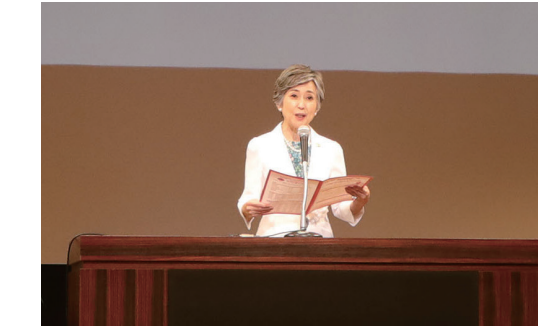
恵那駅前でラリージャパンを P R



11 月開催のラリージャパンを盛り上げようと、市ラリージャパン活用推進実行委員会は、ラリーのイラストや写真がプリントされたフラッグとマンホールのふたを作成し、恵那駅前に設置しました。今後はのぼり旗を設置しさらに P R を行っていく予定です。

8/25

日本大正村立村 40 周年を祝う



明智かえでホールで日本大正村立村 40 周年記念式典が行われ、関係者が節目の年を祝いました。式典は 2 部構成で、功労者表彰やフォトコンテストの表彰が行われた後、竹下景子村長による朗読劇「ビルマからの便り」が上演され、式典に華を添えました。